子ども未来学研究　2013年　第8号　pp. 55-70

保育者養成に関する養成校と実習園の連携に向けて

――下関市私立保育園連盟への調査に基づいて――

桑　畑　洋一郎

要　旨

本研究は、下関市私立保育園連盟に対して実施した自由記述式のアンケート調査の結果を基にして、第1に実習に対する保育園側の意識を、第2に人材育成や人材確保に対する保育園側の意識を把握し、今後の実習園と養成校との連携に向けた示唆を得ることを目的とするものである。方法は、KHcoderを用いた計量テキスト分析を用いた。

分析の結果、保育者の養成に対する実習園側の意識として、保育の専門的技術（ピアノや絵本の読み聞かせなど）よりもむしろ、子どもとの／保護者との／保育者同士のコミュニケーションを円滑にする人間性の養成が求められていることが明らかとなった。

本研究で得られた結果を受けて、養成校と実習園の双方向的なやり取りを行う回路を築き、あるべき保育者養成のための連携を模索することとしたい。

キーワード：保育者養成・実習・計量テキスト分析

1. 研究の目的と研究の背景

本研究は、下関市私立保育園連盟に対して実施した自由記述式のアンケート調査の結果を基にして、第1に実習に対する保育園側の意識を、第2に人材育成や人材確保に対する保育園側の意識を把握し、今後の実習園と養成校との連携に向けた示唆を得ることを目的とする。

平成25年度全国保育士養成セミナーでも「保育所実習と実習指導――連携づくりと学生の育ち」と銘打たれた分科会が開催されたように、現在、実習園と養成校との連携を築くことと、そこから実習・就職活動を含めた保育人材の育成をより良いものとしていくことが喫緊の課題となっている（全国保育士養成協議会第52回研究大会実行委員会事務局編 2013：111-9)。そこで、下関市においても養成校と実習園との連携をさらに強いものとしていくために、平成25年度より「下関市保育士養成連絡協議会」が設立された。また、協議会実施に先立って、連携のあるべき形を探るために、実習園側の意識を養成校側が把握し、実習・就職活動における連携の基盤を築くための調査が行われた。これが本研究で分析対象とするものである。

本研究の背景は以上のようなものである。また、本研究で保育園側の意識を把握することで、それに基づいた忌憚のない意見交換を行うための基盤を築くことに本研究の意義はあると言えよう。

2. 調査と分析について

ここではまず、調査の概要について説明しておきたい。本調査は、「各保育園が持つ、保育士養成校への（実習・人材育成に関する）意見を把握・集約するためのもの」という趣旨の下実施された。回答者は下関市私立保育園連盟加盟保育園33園の代表であり、回収数は20である（回収率20/33=60.6%）(1)。調査に際しては、同連盟の田中義道会長に調査への協力を依頼し、連盟会合にて田中会長により説明・配布をしていただいた上、田中会長の元に回答を返送していただく形を取った。回答は無記名である(2)。設問は計6問で、全て自由記述式である。具体的には以下の通りである。

表1：調査の概要

問1　保育実習に関して

問1a　実習に対する心構えや、評価票・日誌等実習に用いる様式についてなど、養成校の実習指導体制に関するご意見を自由にお書きください。

問1b　貴園が求める実習生像や、実習生の資質の不足を感じたエピソードなど、実習生の資質に関するご意見を自由にお書きください。

問2　求人・採用・保育人材の養成に関して

問2a　仕事に関する心構えの理解促進や、就職後の人生設計など、養成校の就職指導体制に関するご意見を自由にお書きください。

問2b　求人時期や求人方法、人材のマッチング方法など、養成校の求人・採用の仕組みへのご意見を自由にお書きください。

問2c　保育士として求める人材像や、採用後保育士としての資質の不足を感じたエピソードなど、養成校に求める人材養成についてのご意見を自由にお書きください。

問3　実習指導や新人保育士指導に関して、貴園で工夫しておられ、良い結果が出た取り組みがあればご紹介ください。

分析に際しては、調査への回答の中にどのような意味の単語が出現する傾向にあるか、専用ソフト（KHcoder）を用いて抽出する方法を取った。 このソフトを用いると、文章が単語レベルに解体され、各単語の出現回数が集計される。たとえば「論文の締め切りが近づいている」「レポートを急いで書かなければ、締め切りは明後日だ」という文章であれば、「論文」「締め切り」「近づいて」「レポート」「急いで」「書く」「締め切り」「明後日」といった単語が抽出される(3)。概念的に示すならば以下の図のような形になる。

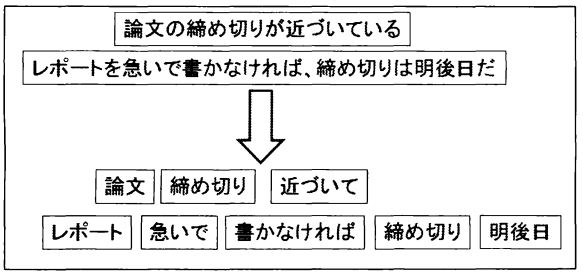

図１：KHcoder を用いた分析の概念図（1）

さらに続いてこのソフトでは、類似する意味の単語をグルーピングしカテゴリーを作成し、カテゴリーごとに出現傾向を測定することもできる。先の例を再度用いて図示するならば、以下のようになるだろう（カテゴリー名は「 」でくくっている）。

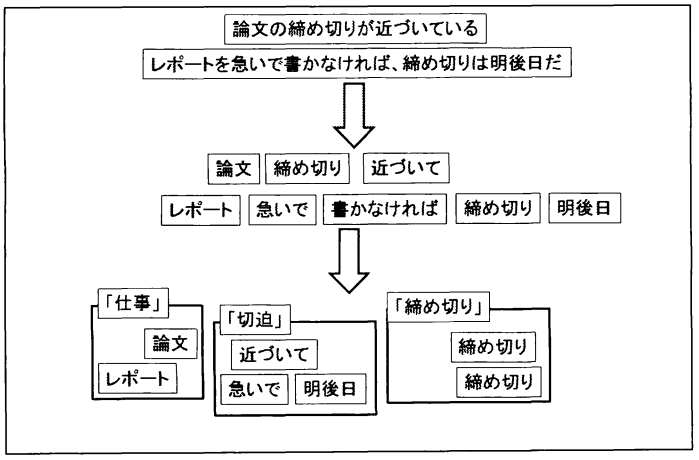

図２：KHcoder を用いた分析の概念図（2）

カテゴリーを作成することで、文書全体でどのようなカテゴリーが何回出現しているのか、またどのような場合に、ほかのカテゴリーとどのように結びついて出現しているのか、といったことを計量的に把握することが可能となる。つまりはこのソフトを用いることで、文書データのような質的データを計量的に把握することが可能となるということである(4)。

なお今回は、問３は分析対象から外すこととした。理由は第１に回答数が少なく、計量的に把握する意義があまりないこと、第２に設問の内容に鑑みて、各園の実践として個別に検討されるべきものだと考えられたからである。とは言えもちろん、調査結果自体は今後の連携の強化のために活用していく予定である。

3. 設問ごとの結果

続いて、設問ごとに分析結果を記述していく。結果の記述に際しては、設問ごとに設定したコーディングルールと、コード別の出現頻度を示しながら結果の記述を行う。

(1) 問 1a の結果の記述

問 1a に関しては、回答を見ながら以下のようなコードを作成した。

表 2：問 1a コーディングルール（＊の後がコード名、その下の段がコードに含まれる単語）

＊日誌
　日誌
＊評価票
　評価票
＊様式
　様式 or 段階 or 形式 or 見方 or 項目 or 用紙 or 記入 or コピー or 違う or
　書き入れる or 足す or 付け足す or 見にくい or 堅苦しい or 詳しい
＊書き方
　書き方 or 見本 or 内容 or 書く
＊学生の姿勢
　意欲 or 心構え or 積極 or 態度 or やる気 or 笑顔 or 先輩 or 動き or 目的 or
　経験 or 前向き or 意識 or 工夫 or 反省 or 指示 or 用意 or 疑問 or 取り組む or
　臨む or 嫌がる or 取り組める or 心がける
＊容儀
　服装
＊教養・常識
　書類 or 通勤
＊保育の視点
　理解 or 考察 or 願う or 気付く or 気づく
＊保育の技術
　壁面 or 遊び or 研究 or 保育 or 発揮 or 構成 or 遊ぶ or 遊べる
＊学内指導
　学校 or 校内 or 大学 or オリエンテーション or 指導 or 養成校 or 留意 or 学ぶ or
　習う or 決める
＊統一
　統一

＊子ども
　子供 or 子ども
＊実習
　実習

また、各コードに含まれる単語の出現頻度は以下の表と図の通りである。

表３：問 1a のコード別出現頻度
（分母は文書数(n=19)）

コード名	出現回数	割合
＊日誌	13	68.4%
＊評価票	6	31.6%
＊様式	12	63.2%
＊書き方	13	68.4%
＊学生の姿勢	12	63.2%
＊容儀	2	10.5%
＊教養・常識	2	10.5%
＊保育の視点	4	21.1%
＊保育の技術	3	15.8%
＊学内指導	15	79.0%
＊統一	4	21.1%
＊子ども	2	10.5%
＊実習	13	68.4%

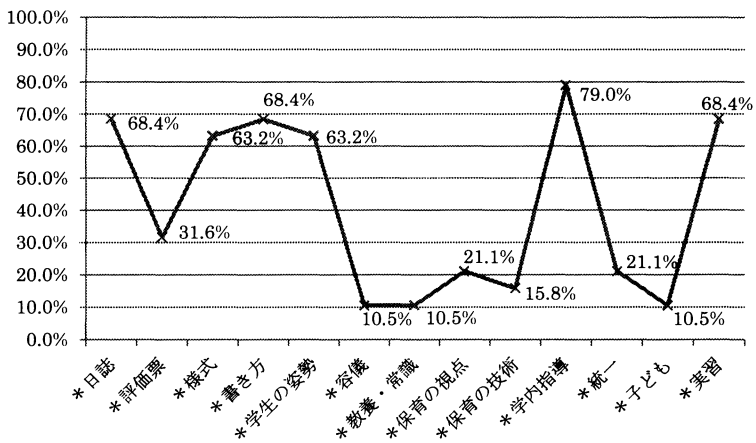

図３：問 1a のコード別出現頻度（割合）

問1aについては、上図に明らかなように、【学内指導】【日誌】【書き方】【実習】【様式】【学生の姿勢】が頻出している。以上より、養成校の実習指導体制に関しては特に、実習に関する学内指導への要望が存在することが分かる。具体的な要望として顕著なものは、日誌の書き方――これには様式の統一も含まれる――と、学生の姿勢――ただし見た目などよりもいわゆる「積極性」など実習に対する姿勢に関する部分――への指導強化が望まれていることが推察される。

こうした結果を象徴する回答としては、以下のようなものがある。

表4：養成校の実習指導体制に関する要望の象徴的回答

【日誌】
- 自分の学校の日誌の書き方について把握していない方が多く、聞いても「習っていません」「わかりません」と答えが返ってくる。
- 実習の評価票のレベルが高すぎるように感じる。
- 日誌の様式を統一してほしい。

【学生の姿勢】
- 笑顔で子どもと遊んでほしいです。
- 心構えについては事前の校内のオリエンテーションにおいて服装や実習に入るにあたっての姿勢を指導してほしい。

以上のように、養成校の実習指導体制については、第1に実習と実習指導の定式化が、第2に主に実習への姿勢に関する指導の教科が要望されている。

(2) 問1bの結果の記述

問1bについても同様に、回答を見ながら以下のようなコードを作成した。

表5：問1bコーディングルール（＊の後がコード名、その下の段がコードに含まれる単語）

＊日誌
日誌 or 計画書
＊学生の姿勢
聞く or 意欲 or 心構え or 積極 or 態度 or やる気 or 笑顔 or 先輩 or 動き or 目的 or 経験 or 前向き or 意識 or 工夫 or 反省 or 指示 or 用意 or 疑問 or 取り組む or 臨む or 嫌がる or 取り組める or 心がける or 自分 or マイペース or メリハリ or ロボット or 気配り or 言い訳 or 忘れ物 or 質問 or 行動 or 失敗 or 準備
＊容儀
服装 or 身だしなみ

＊教養・常識
書類 or 通勤 or 基本 or 玄関 or あり方 or お手本 or 最低基準 or 根底 or 時代 or 上げ下ろし or 茶碗 or 掃除 or 片付け or 挨拶 or 生活 or 清掃
＊保育の視点
見つける or 感じる or 理解 or 考察 or 願う or 気付く or 気づく
＊保育の技術
壁面 or 遊び or 研究 or 保育 or 発揮 or 構成 or 遊ぶ or 遊べる or 絵本 or 紙芝居 or 手遊び or 教材 or 保育内容 or ピアノ or 技術 or 資質 or 保育 or 設定
＊学内（での指導）
学校 or 校内 or 大学 or オリエンテーション or 指導 or 養成校 or 留意 or 学ぶ or 習う or 決める
＊子ども
子供 or 子ども
＊実習
実習 or 指導 or 指示
＊現場
現場 or 担任 or 実際
＊保育士
保育士

また、各コードに含まれる単語の出現頻度は以下の表と図の通りである。

表 6 ：問 1b のコード別出現頻度
（分母は文書数(n=20)）

コード名	出現回数	割合
＊日誌	2	10.0%
＊学生の姿勢	18	90.0%
＊容儀	1	5.0%
＊教養・常識	9	45.0%
＊保育の視点	8	40.0%
＊保育の技術	11	55.0%
＊学内（での指導）	10	50.0%
＊子ども	6	30.0%
＊実習	14	70.0%
＊現場	4	20.0%
＊保育士	9	45.0%

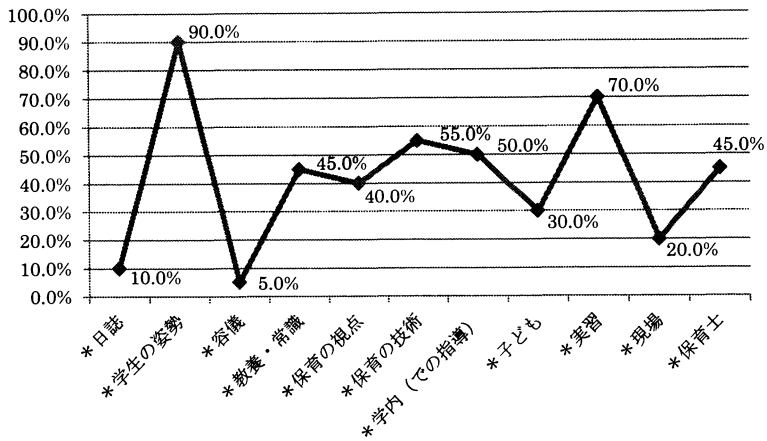

図4：問1bのコード別出現頻度（割合）

頻出コードとして目に付くのは、【学生の姿勢】【実習】【保育の技術】【学内(での指導)】がある。また、【教養・常識】も一定程度の出現が見られる。

以上より推察されるのは、実習という実践的な場に来ているにもかかわらず、その機会を生かせていないことの指摘が多いということである。またこれは、元の回答に立ち戻って検討したところ、【保育士】コードの出現に関しても同様の意味があると思われる。【保育の技術】についても、完全に技術を習得していてほしいということではなく、むしろ、実習を控えているのだから技術を少しでも準備していてほしいといったことであった。加えて、常識の欠落も指摘されている。

以上より、実習生個人に対する要望については、【実習】という機会を理解し機会を活用できる実習生や、常識をある程度身に着けていてほしいといったものがあると理解できよう。また、そうした部分を、前節と同様に【学内（での指導)】で共有してほしいとの要望があると思われる。

こうした結果を象徴する回答としては、以下のようなものがある。

表7：実習生の資質に関する要望の象徴的回答

【学生の姿勢】
- 園としては失敗を恐れずにチャレンジしてほしい。
- 「学びたい」という意欲を持って取り組んでほしい。

【実習】（と【学生の姿勢】（への不満））
- 学校ではわからない実際の現場に来ているのに、自分から聞いたりすることなく、ただ見ているだけ（後略）
- 実習に来ているのだから、もっと積極的に質問したり疑問に思ったことも聞いてほしい。

【保育の技術】（の不足への不満）
- 保育のための教材などの準備ができていない。

・絵本の読み聞かせ、手遊び等、すぐに子どもたちの前で提供できるものを持っている学生が少ない。

【教養・常識】

・挨拶や行動、箸や茶碗の上げ下ろしなど、細かいことだが、それが子どもたちのお手本、見本となることを考え、理解しておいてほしい。

・提出物の期限厳守。

(3) 問 2a の結果の記述

問 2a については、以下のようなコードを作成した。

表 8 ：問 2a コーディングルール（＊の後がコード名、その下の段がコードに含まれる単語）

＊姿勢
姿勢 or 態度 or 積極 or 責任 or 甘え or 自覚 or 質問 or 頑張る
＊教養・常識
挨拶 or 基本 or 気持ち or 言葉使い or 基本的 or マナー or 常識 or 人格 or 完成 or 体調
＊学生
学生
＊現場
現場 or 受け入れ側 or 職場 or 園 or 実際 or 仕事
＊社会人
社会人 or 就職
＊保育の技術
ピアノ or 絵本 or 手遊び or 製作 or 歌 or 教材
＊職場体験
インターンシップ or ビデオ or ボランティア実習 or 体験
＊養成校
養成校 or 学校
＊仕事の意義
聖職 or やりがい or ハード or 指導者 or 喜び
＊人材
人材 or 求める

また、各コードに含まれる単語の出現頻度は以下の表と図の通りである。

表9：問2aのコード別出現頻度
（分母は文書数(n=12)）

コード名	出現回数	割合
＊姿勢	7	58.3%
＊教養・常識	5	41.7%
＊学生	2	16.7%
＊現場	8	66.7%
＊社会人	3	25.0%
＊保育の技術	2	16.7%
＊職場体験	2	16.7%
＊養成校	0	0.0%
＊仕事の意義	4	33.3%
＊人材	3	25.0%

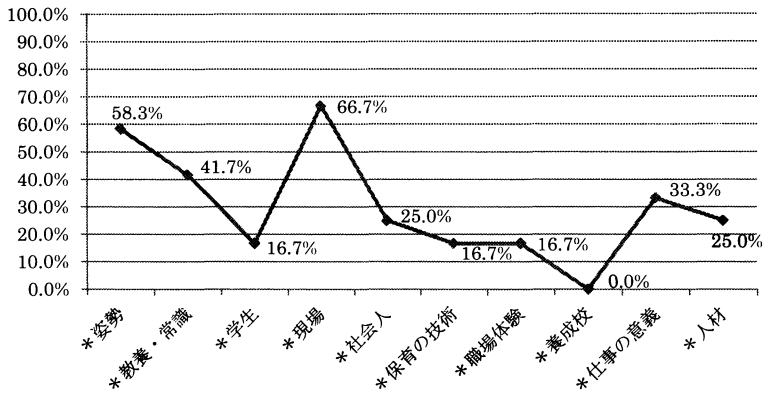

図5：問2aのコード別出現頻度（割合）

以上のように、【現場・職場】【姿勢】【教養・常識】【仕事の意義】が頻出している。このことから、就職後は学生時代とは異なり、実際の保育者としての自覚と常識を持ってふさわしい振る舞いをしてほしいとの声があることが推察される。

また、保育という仕事は労働環境の厳しさがあるのも事実としながら、それを補うだけの【仕事の意義】も保育にはあることが指摘されていた。

こうしたことから、養成校の就職指導体制については、保育に携わる者としての責任感の養成を求める声がある程度存在することがうかがえる。ただし一方では、責任感などの保育者としての【姿勢】が、養成校ではなく卒業後の【現場】で培われるものであると位置づける声もある程度存在する。

こうした結果を象徴する回答としては、以下のようなものがある。

表10：養成校の就職指導体制に関する要望の象徴的回答

【現場・職場】
・現場の職員が新鮮な前向きな姿勢に学ばされる場合も
・良い人でもその職場に適応するか否か、受け入れ側にも問題が
【姿勢】
・学生から社会人になったという自覚を持って就職してほしい
【教養・常識】
・社会人として大切な基本的なマナーができていない
・人としての基本はあいさつができる人である。
【仕事の意義】
・聖職である保育士は一般的な常識を理解しているものでなければ
・いつまでも学生気分が抜けず、ある程度の責任を持って頑張ろうという姿勢がなかなか身に付かない。
・仕事としてはハードで、持ち帰り仕事なども多く、忙しい毎日の中、すべてが給料に反映されるわけではないことが多い。でも、とても良い仕事なので（後略）

(4) 問 2b の結果の記述

問 2b については、以下のようなコードを作成した。

表11：問 2b コーディングルール（＊の後がコード名、その下の段がコードに含まれる単語）

＊学生
　学生
＊人材
　人材
＊園児
　園児 or 児童
＊職場体験
　自主 or 実習 or 体験
＊学校側からの働きかけ
　学校 or 斡旋 or 名簿 or 就活 or 考慮 or 制約 or 就職
＊園の事情
　状態 or 現実 or 一般 or 入所 or 異動 or 退職 or 予測 or 困難 or 難しい
＊質
　レベル

＊時期
　年度 or 年明け or 時期 or 1月 or 3月 or 2月 or 途中 or 早い
＊園の採用行動
　求人 or 採用 or 試験 or 活用
＊理解
　理解 or 考慮

また、各コードに含まれる単語の出現頻度は以下の表と図の通りである。

表12：問2bのコード別出現頻度（分母は文書数(n=10)）

コード名	出現回数	割合
＊学生	5	50.00%
＊人材	3	30.00%
＊園児	2	20.00%
＊職場体験	4	40.00%
＊学校側からの働きかけ	5	50.00%
＊園の事情	5	50.00%
＊質	1	10.00%
＊時期	5	50.00%
＊園の採用行動	7	70.00%
＊理解	3	30.00%

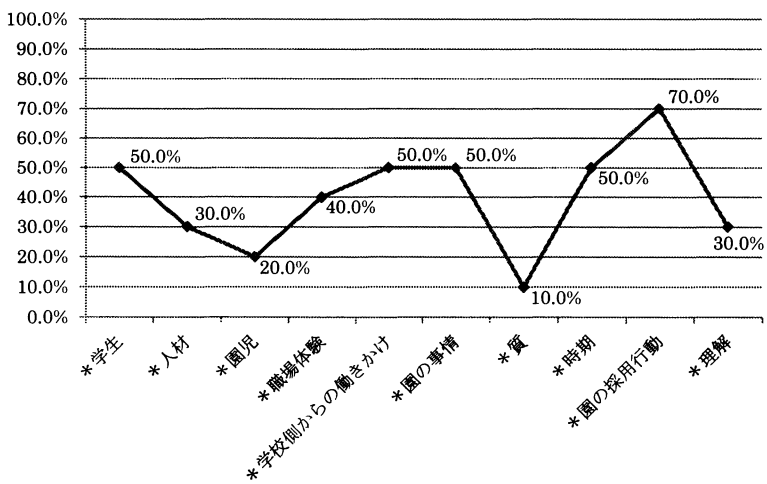

図6：問2bのコード別出現頻度（割合）

以上のように、【園の採用行動】【学校側からの働きかけ】【園の事情】【時期】【学生】が頻出していることが分かる。

このことは、次年度の入園者数が年度末にならないと確定できないことが多い保育園の特性があること、ゆえに新卒者の確保を早い時期にできないことを述べ、それへの理解を求める意見が多くなっていると推察される。また、学生と園による、個別的・相対的な就職活動／求人ではなく、学校が仲介することを求める声も存在している。

保育園側への理解を求めつつ、就職活動に関して学校との連携を深めようとする声が見られたという点で、この調査の持つ意義にも深く関わる結果であるといえる。

象徴的な回答としては以下のようなものがある。

表13：養成校の求人・採用の仕組みに関する要望の象徴的回答

【園の採用行動】【園の事情】【時期】
- 一般職と違って、早い時期からの求人を決めることは難しく、学生の就職活動の時期と合わないことが多いと思われる。
- 退職者が早目にわかれば別ですが、入所希望数を見て１月ごろになる。

【学生】【学校側からの働きかけ】
- 名簿等、早い段階で知らせてほしい。
- 学生任せにするのではなく、学校側からの直截な人材アピール斡旋をしてほしい。
- 学生の就活のスタートと、各々の園における次年度採用者の人数や時期が同じであればベストなのだが。

(5) 問 2c の結果の記述

問 2c については、以下のようなコードを作成した。

表14：問 2c コーディングルール（＊の後がコード名、その下の段がコードに含まれる単語）

＊子ども
子ども or 乳幼児
＊自主性
自分 or 自己
＊職場関係
先輩 or チームワーク or コミュニケーション or 協調 or 同調 or 関係 or 意見 or 助言 or 共に
＊教養・常識
基本 or マナー or 一人前 or 基礎 or 言葉づかい or 言葉遣い or 好き嫌い or 誤字 or 過保護 or 日本語 or 大人 or 礼法 or 挨拶 or 妊娠 or 当たり前 or 守る

＊容儀
身なり or 化粧
＊専門性
プロ or 資質 or 現実 or 先生 or 保育
＊姿勢
笑顔 or 受け身 or 消極 or 精神 or 責任 or 臨機応変 or 明朗 or 自覚 or 快活 or 素直
＊保育の技術
教材 or 手遊び or 遊び or 一人ひとり or 勉強
＊仕事
仕事 or 就職 or 働く

また、各コードに含まれる単語の出現頻度は以下の表と図の通りである。

表15：問2cのコード別出現頻度
（分母は文書数(n=15)）

コード名	出現回数	割合
＊子ども	7	46.7%
＊自主性	4	26.7%
＊職場関係	8	53.3%
＊教養・常識	8	53.3%
＊容儀	1	6.7%
＊専門性	9	60.0%
＊姿勢	9	60.0%
＊保育の技術	5	33.3%
＊仕事	7	46.7%

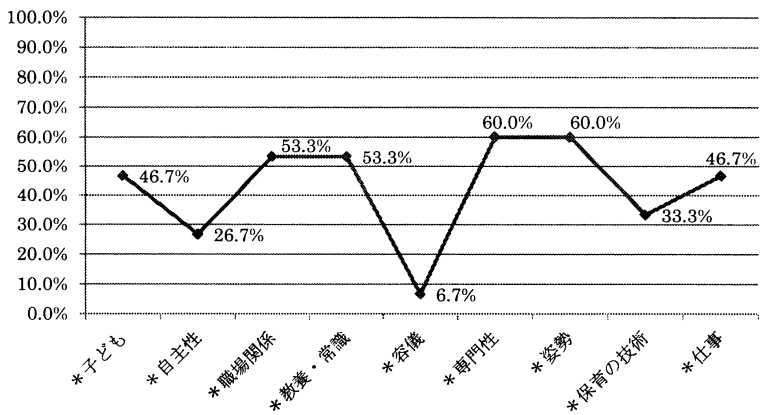

図7：問2cのコード別出現頻度（割合）

以上のように、【専門性】【姿勢】【教養・常識】【職場関係】が頻出している。

このことは、保育士の【専門性】として、（【教養・常識】や【職場関係】を円滑にする行為とかなりの部分で重複する）【姿勢】を位置づけ、その不足を指摘し、さらなる習得を求める声が多いと理解される。

つまりは、保育士に求める資質や専門性としては、子どもに対する専門技術や技能よりもむしろ、人間関係を円滑にするコミュニケーション能力や人間性の方が優先されるという理解が存在することが見て取れる。

象徴的な回答としては以下のようなものがある。

表16：養成校に求める人材養成に関する要望の象徴的回答

【専門性】【姿勢】【教養・常識】【職場関係】

- 提出物の期限や時間を守ることなど、社会人として守らないといけないことはきちんと守れるような人。
- 保育士は、明朗快活であることが必須である。
- 目を見て「ありがとう」「すみませんでした」等基本的な挨拶ができる人。素直に先輩方の意見が聞ける人。明るい人。
- 自分が選んで2年あるいは4年間の勉強をした道なので、もう少しがむしゃらに仕事に立ち向かってほしいと思う。すぐにへこたれないでほしい。そしてあくまでも勉強と現実の違いはあることを理解してほしい。
- 保護者や先輩など多くの人とのかかわりがあるので、やはり社交性、協調性を持った、臨機応変にいろいろなことと向き合える人材。

4. おわりに

各保育園が持つ、保育士養成校への（実習・人材育成に関する）意見を集約・分析したところ以上のような結果が出た。意見の多くは、養成校の状況への理解を示しつつも、さらに良い実習指導・人材育成を要望するものであり、そこから、より良い保育人材の確保を要望するものであったと理解できる。要望の具体的な中身としては、保育の専門的技術（ピアノや絵本の読み聞かせなど）よりもむしろ、子どもとの／保護者との／保育者同士のコミュニケーションを円滑にする人間性の部分が多く挙げられていた。技術よりもまずは、他者と関わる能力を養成してほしい、ということであろう。

養成校としてはこうした意見を受け止めるとともに、養成校側の思いや状況を園側に伝えていくことも今後必要となるだろう。連絡協議会が結成された目的は、一方が他方にのみ意見を言うといった一方向的な回路を結ぶことにはなく、相互に忌憚のない意見を出し合いながら、最終的に保育の状況をより良いものとしていくことであり、そのために双方向的な回路を結ぶことにある。

調査を行い園側の要望を把握するのは今回が初であり、連携・双方向的な回路の構築はまだ緒についたばかりである。今後も調査や意見交換を繰り返しながら、保育者の養成をさらに理想的なものとしていくこととしたい。そうした、実践的な場面に本研究を活用していくことが、今後の課題として挙げられよう。

注

（1）ただし、回答を寄せてくださった場合でも、設問によっては無回答もあるため、回答数が20を下回る設問もある。

（2）本調査・本研究の目的は、実習を引き受ける保育園がどのような意識を持っているのかを把握し、今後の実習・人材育成をより良いものとすることと、保育園と養成校の連携をより強くすることにある。したがって、どの園の回答か／どの養成校に対する回答かといったことを探ることに大きな意義はなく、むしろ、実習を引き受ける保育園が相対としてどのような意識を持っているか把握することに意義はあると思われる。以上のことより調査は無記名とした。

（3）今回はあまり意味がないので行っていないが、たとえば「の」「が」などの助詞も抽出するように指定するなど、こちらが抽出するルールを指定することも可能である。

（4）とは言え注意しないといけないのは、「計量的な方法で文書データを把握することイコール客観的な分析」ではない、ということである。よくある誤解であるが、数字を用いても分析は客観的にはならない。分析を行うのは筆者であり、必然的に筆者の持つ視点の偏りも分析に反映されてしまう。ただしそれでも、こうしたソフトを用いて計量的に文書データを把握することには意味があると筆者は考える。それは、ソフトを用いて分析プロセスを可視化することにより、（分析の客観性ではなく）分析プロセスの客観性を保つことが可能になり、反証可能性――筆者がどのような手順でどのような分析を行っていて、そこに問題はないのかを他人が検証する可能性――を保つことが可能になるからである。

文献

全国保育士養成協議会第52回研究大会実行委員会事務局編，2013，『平成25年度全国保育士養成セミナー・全国保育士養成協議会第52回研究大会実施要綱』全国保育士養成協議会第52回研究大会実行委員会事務局.